

## S-14

### 当院におけるチーム医療の現状～医師主導型からの脱却を目指して

さいたま赤十字病院 クリティカルパス委員会

○安藤<sup>あんどう</sup> 光威<sup>みつえ</sup>、大内 邦枝、有澤 文夫、安藤 昭彦、武居 一康、大須賀 俊人

【はじめに】最近本学会を始めパス学会など多くの施設からチーム医療に関する演題が活発に出され、当院と同様の地域中核病院において横断的医療が実践されている。当院では多くの委員会が設置されているにもかかわらず、その活動が病院全体に伝わらないという状況が続いている。われわれはクリティカルパス推進活動を行うなかで当院でのチーム医療、医療における問題点を探り、今後のチーム活動の意義あるものに変えていきたいと考えた。

【方法】院内パス勉強会出席者に無記名質問紙により、各種委員会活動、院内医療状況に対する印象を調査した。

【結果】＜1＞院内チーム医療は機能しているか；はい3%、まずまず57.5%、いいえ36.4%。＜2＞院内の医療活動などの現状は好ましいか；はい18.2%、いいえ81.8%。＜3＞院内の医療の印象（複数選択可）；a) 主治医主導型である60.6%、b) 各科内では共通の意見がある20.2%、c) 医師が積極的に他科とコミュニケーションを図っている3.0%、d) 看護師の意見は治療に反映される24.2%、e) 看護師の意見は反映されない42.4%、f) 様々スタッフが治療に関わる12.1%。

【考察】当院では院内の現状に対し満足度が低い状態で働いている職員が多く、医師に従うのみという体制が常態となっており、委員会活動の数に比してチーム医療という体制がまだ作られていないと考えられた。

【まとめ】医師主導と閉鎖性が強い現状から脱却し、多くの観点から個々の患者を観察、検討を重ねながら共通のゴールを目指す、真のチーム医療を導入するための試みを報告する。